

# 愛媛県立 松山西高 同窓会報

平成7年8月12日発行  
 発行所  
 松山西高等学校同窓会  
 松山市久万ノ台  
 印刷所  
 株式会社 松栄印刷所

## 愛媛県立松山西高等学校 同窓会報の発行に際して



会長  
伊賀上 竜也

松山西高等学校同窓会報の記念すべき第一号の発行に際し同窓会を代表して一言御挨拶を申し上げます。「昭和四十九年四月中予地区に市民の待望の四番目の普通科高校が誕生した。」過去いろいろな方の御挨拶の始まりは、こう言い切り出して始まるのであるが、本校の卒業生として学

校設立に携わっていない我々の挨拶は、そうはいかない。さて、どう言う切り出しが良いかと数日の思案の末にやはり松山西高等学校第一期生として率直な思いを感じたままに話すしかないだろうという結論に達した訳であります。さて、松山西高等学校と言

う名前に皆さんはどんな思いを持たれているでしょうか。ただ単に人生の通過点としての高校であったり、自分の生涯の友人が現れたりとそれぞれの思いを持たれていることと思えますが最初の卒業生として私が思う松山西高等学校についてを思いのままに記し、この記念すべき会報の冒頭の挨拶としたいと思います。

愛媛県立松山西高等学校の入学試験が松山東高校の教室を借りて昭和四十九年三月十三、十四日両日に倍率にして一・八三倍という人気のもと行われました。合格発表も松山東高校、第一回目の招集も同じく松山東高校ということ。我々の進む学校の姿も見な

いままに高校生活がスタートしたように記憶しています。そして入学式も市民会館で行われ昭和四十九年四月十日、初めて見る松山西高等学校の姿、これをどのような言葉で伝えればよいのだろうか。ダンブや大型機械の走るなか、四棟のプレハブ校舎が我々の最初に目にした母校である。よく開校に際して御世話になった方々も口々にこの

話をされるが、実際にそのプレハブを我が家として学校生活を送った生徒と初代の清家校長先生をはじめ生徒以上に情熱に溢れた諸先生方の気持ちはやはり当事者しかわからないのではないのでしょうか。さて、こんな体験を後輩諸君に自慢話として聞かせようなどという気持ちはさらさらないわけで、皆さんにはそこに愛媛県立松山西高等学校の原点があるということだけを忘れないで欲しいのであります。開拓者精神、これが原点です。無のなかから

有へ時代だけは確実に進んでいます。プレハブの校舎のことなどは、一期生と当時の教職員の先生方の胸の中に納めておけばよいのです。

松山西高等学校も一昨年創立二十周年を迎えやつと一般社会でいう成人式を過ぎたばかりの若い学校です。この同窓会報の発行に当たり我々ももう一度原点に立ち返り、同窓会も新たなスタートとして頑張つて行くこうではありませんか。

私が常々言っている事です。が、伝統というものは続いて初めて出来上がってくるもの

です。後輩諸君の頑張り、本当の意味の伝統を作つて行くのです。松山西高等学校を卒業したからと言って終わるのでなく今後の諸君の活躍が伝統を作る役割の一翼を担っているのです。

今回この会報を読まれている卒業生の皆さんも我々同窓会の仲間として母校の発展に力を貸して下さい。いつまでも母校の校歌を大声で歌い続けて下さい。自分達の学校をもっと誇りに思い自信を持つて下さい。西高精神に培われた皆さんの活躍を心よりお祈り申し上げます。

終わりに愛媛県立松山西高等学校同窓会報の発行に当たり御苦労をお掛けした広報部の皆さんに敬意を表すと共に御指導を頂きました学校関係者各位に厚く御礼申し上げます。

今後の後輩諸君の活躍を祈り、松山西高等学校のさらなる発展を願い御挨拶と致します。





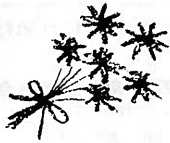
# 庭樹雑感

校長  
松岡 繁

成願寺の桜花から、やがて  
校庭のつつじ、さつきへと咲  
き続けていく校内外の景観  
は、におうばかりに美しい。  
四月に本校に赴任して以来、  
それらはまるで絵巻物の一場  
面を見るような思いがしたも  
のです。また、そうした華や  
かな樹木に交じってのいちょ  
うや楠の落葉高木、常緑高木  
の新緑は、本校生の若々しさ  
や明るさを象徴しているかの  
ような気がします。

なかでも、楠は、常緑樹で  
あるが、古い葉は若葉が育つ  
のを見てから落葉します。目  
もくらむばかりのあの新緑  
は、古いものから新しいもの  
へと命の受け継ぎをしている  
ようにも思えます。卒業生か  
ら在校生へとその受け継ぎを  
している姿にも似ていると思  
うことがあります。

生長は遅いが、着実に大木に  
なるように、進歩は遅くても  
堅実に成長していく学問のこ  
とをいうようです。不器用で  
もよい、楠学問とまではいか  
なくても、着実にこつこつと  
人生を生き抜くような人間に  
育ってほしいと思います。  
ゆつくりとはあるが、人間  
としての深まりのある生き方  
のできる若者に成長してほし  
いと思うのです。これからの  
長寿社会にあつては、従来以  
上に、人生をどう生きたかが  
問われることになると思うか  
らです。楠を見るたびに、生  
徒たちへの期待に胸をふくら  
ませている昨今です。



# 創刊によせて

西友会会長

仙波 正志



同窓会報誌のご創刊、まこ  
とおめでとうございます。  
松山西高等学校同窓会が発  
足されましたのがおそらく昭  
和五十二年のはずであります  
が、それ以来十八年余り、十  
九期生が仲間入りし「歴史」  
を刻んで来られました。その  
間、伊賀上会長、掛川、光田

両副会長の一貫した名コンビ  
と、それを支える役員の皆様  
方の一致団結した力が、会長  
の強いリーダーシップと全体  
の和やかさとの絶妙のハーモ  
ニーを醸し出し、ここまで前  
進させて来られたと思いま  
す。  
今回の同窓会報誌創刊のお

# 同窓会誌創刊によせて

P T A 会長

西岡 和久



松山西高等学校同窓会の皆  
様方には日頃より西高に対  
し、多大なるご援助ご協力を  
賜わり、P T A を代表して、  
厚く御礼申し上げます。松山  
西高も、創立以来二十一年を  
経て、愛媛県における名門高  
校として着実に力を蓄え充実  
してまいりました。これ偏に  
同窓会の皆様方の各方面にお  
けるご活躍、又、西高に対す  
るご援助ご協力によるものと

感謝いたしております。  
同窓会におかれましては、  
伊賀上会長を中心に、年々充  
実発展に尽され、今後の同窓  
会の益々の充実を目的とし、  
同窓会誌を創刊された事は、  
同窓会の皆様の西高に対する  
愛着と、暖かい眼差しを感じ、  
ご同慶に存じます。  
人生において、一番多感で  
あり、ゆえに最も思い出深い  
高校生活を送った場所は、生

話を承りまして、同窓会も遂  
にここまで来られたかと、そ  
の落着きと力をしみじみ感じ  
る次第でございます。同窓  
会の初期を知る者の一人とし  
て心からの拍手をお贈り申し  
上げます。  
申すまでもなく、同窓会を  
支えるものは会員一人一人の  
母校愛でありまして、今後共  
松山西高同窓会が、「師の恩  
美しく、友情美しく、想い出  
美しく」の三美精神を基調と  
して、ますます発展されん事  
を激しくご期待申し上げます。

涯忘れ得ぬ人格形成の起点で  
あると思えます。心の聖地と  
も云えるキャンパスでの青春  
の思い出は一生の宝であると  
云えます。同窓会の皆様にと  
く後輩たちは、先輩諸氏の西  
高に寄せる熱い思いに励まされ、歴史を重ね、更なる伝統  
を積み上げてゆきます。同窓  
会誌は、会員相互の結束を強  
くするとともに、学校と同窓  
会を結ぶ情報の掛橋です。生  
涯の思い出の地を守り育て、  
後輩たちへ送る熱き思いの  
メッセージとも云えます。同  
窓会誌が今後益々充実し、同  
窓会の発展、引いては西高の  
発展に寄与されん事を心から  
ご祈り申し上げます。



# 発刊お祝い

清家敏雄

此の度は同窓会報誌を発刊される由、先に創立二十周年を記念して念願の会員名簿が刊行され、同窓会各位の動静を具さに集録して会の存在感を高め、さらに今回の企画により会員相互の交歓・広報の場を設け会の運営強化に役立てられるものと、お喜びを申し上げます。

さて同窓会に就いてであります、小生の場合、かつて在勤した学校の同窓会の客員であることは無論ですが、その他に幾つか私自身の出身校の同窓会や同期会のメンバーでもあり、毎年のように案内を頂き努めて出席を心掛けています。それらの内でも特に十代の後年に繋りを持った組織が一番どうも印象的であり、すでに七十歳も半ばに達した吾々の年代になると、大方がとくに職場の第一線も第二線もリタイヤしており、自由業者などには仕事を

続けている者も若干いますが、これも言わば隠居仕事で、もう社会的な地位も名誉も利害も凡そ世俗的なものは、すっかり洗い流して素っ裸の付き合いをしています。忘形の交わりという言葉がありませんが、そうしたものであります。いつ会っても十代の気分が頭の薄くなった、いいお爺ちゃんや誰彼とつかまえて、相手は孫であるまいに「誰やらちゃん」などと呼掛けている。和気あいあい稚氣まんまん。小生これを指して、忘年の交わりと呼び、勝手な解釈をして喜んでいきます。

吾々は一生の間に色々な組織や団体の構成員になります、が、こんなに寿命の長い付き合いは、他には滅多にありません。僅か数カ年の触れ合いの後、五十年も六十年も延々として続く人間関係には、本当に不可思議な思いを禁じ得ません。諸君にとつては遠い

（将来の話ではありませんが、然し既に、こんな組織の一員であることを充分認識されて、これから次第に味の出て来るであろう此の会を、精々末長く大事にして頂きたいものです。

伊賀上会長は、忙しい時間を割いて会の維持発展に頑張っておられ、常々敬意を表しています。十一秒五の俊足ラガーの為に、みんなが強力なスクラムを組んでプッシュしてあげてください。一言お祝

いまでに。



## 旧職員録 (H7. 3. 31現在)

氏名	教科	本校在職年数	現職校
清家 敏雄	社会 (初代校長)	S49. 4 ~ 54. 3	退職
木地 真知子	音楽	S49. 4 ~ 50. 3	退職
兵頭 清志	英語	S49. 4 ~ 51. 4	逝去
佐藤 喜久子	家庭	S49. 4 ~ 52. 3	退職
小野 憲一	理科	S49. 4 ~ 54. 3	福山大学非常勤参事
加藤 勝	数学	S49. 4 ~ 54. 3	寺小屋グループ
中岡 満義	美術	S49. 4 ~ 54. 3	小田高校 (H7. 4. 1~)
松谷 健八郎	国語	S49. 4 ~ 54. 3	松山東高校
豊田 達雄	社会	S49. 4 ~ 55. 3	総合教育センター
大瀧 良子	保体	S49. 4 ~ 55. 3	伊予高校
石崎 実	事務	S49. 4 ~ 55. 3	退職
泉田 武夫	事務	S49. 4 ~ 56. 3	退職
石丸 博	社会	S49. 4 ~ 56. 3	済美高校
谷口 真明	英語	S49. 4 ~ 56. 3	松山南高校
山本 哲雄	数学	S49. 4 ~ 56. 3	松山北高校
梶原 三枝子	事務	S49. 4 ~ 56. 3	退職
荒木 司	事務	S49. 4 ~ 56. 3	教育委員会総務厚生
麻生 耕三	国語	S49. 4 ~ 57. 3	逝去
芝元 和朗	理科	S49. 4 ~ 57. 3	逝去
亀岡 和雄	理科	S49. 4 ~ 58. 3	松山東高校
織田 昌宏	保体	S49. 4 ~ 58. 3	逝去
鎌田 安夫	書道	S49. 4 ~ 58. 3	松山南高校
宇都宮 博晶	英語	S49. 4 ~ 58. 3	松山南高校
門屋 昭則	事務	S49. 4 ~ 58. 3	松山盲学校
金橋 壽雄	国語	S49. 4 ~ 59. 3	退職
大西 福衛	数学	S49. 4 ~ 59. 3	新田高校
近藤 雅美	数学	S49. 4 ~ 59. 3	松山中央高校長 (H7. 4. 1~)
渡辺 幸子	事務	S49. 4 ~ 59. 3	伊予高校
富田 徳生	数学	S49. 4 ~ 60. 3	退職
高橋 俊三	保体	S49. 4 ~ 60. 3	逝去
黒田 満一	英語	S49. 4 ~ 60. 3	退職
重信 幸子	養護	S49. 4 ~ 61. 3	退職
尾崎 政則	事務	S49. 4 ~ 62. 3	退職
永井 慕	理科	S49. 4 ~ H2. 3	聖カタリナ女子高校

# 創立二十周年

## 記念式典挙行

### 翔、輝く二十歳、感動の未来へ

本校は昨年(平成六年)、創立二十周年を迎え、皆様方の御協力をいただき「翔、輝く二十歳、感動の未来へ」のテーマのもと、数々の行事が行われた。

まず、五月十三日、人文字の航空写真撮影。グラウンドに全校生徒、教職員が並び、校章を型どった人文字を作った。

記念フェスティバルとして、九月九日には運動会、九月二十四日には文化祭が開催された。文化祭では発表、バザーに加え、保護者の方々の御協力を得て、郷土料理講習会やもちつき大会も行われた。また、全校生徒の見守る中、創立二十周年記念モニュメント(第六期卒業生、現今

治工業高教諭、松尾博文氏設計「未来へ翔ける」の除幕式も行われた。

九月二十五日には、記念式典と祝賀会が盛大に挙行された。式典に先立って行われたオープニングセレモニーの、

岡真理子氏(第四期卒業生)の独唱会では、ソプラノの美しい歌声にうっとりとした。また、ダンス・放送・合唱・吹奏楽の各々が日頃の活動の成果を披露し、式典に華を添えた。その後厳肅な雰囲気の中、式典がとり行われた。午後から引き続き催された祝賀会も盛況であった。

習日の九月二十六日は、県内外から有力校を招いての招待試合が行われ、本校グラウンド、体育館で熱戦がくりひろげられた。

開校記念日の十一月一日には、講師に、国際的に御活躍の森岡まさ子先生を広島よりお迎えし、記念講演会が開催された。森岡先生は、「出逢いを大切に——今を生きる」という演題で、戦中戦後の御苦労や、その中でのご主人との心の通い合い、国際的に御活躍なさるまでの様々な人々との出会いを語られ、その波乱に富んだ人生や、常に希望を持って生きようとする姿勢は、独特の方言の魅力と共に、生徒たちに深い感銘を与えた。

その他、同窓会名簿、二十年記念誌も発行された。



記念モニュメント「未来へ翔ける」

### 平成七年度 (七月三十日現在) 特別活動の主な成績

- ・テニス(男)
  - ・県総体 団体 ベスト8
  - ・ソフトテニス(男)
  - ・県総体 団体 ベスト4
  - ・ソフトテニス(女)
  - ・県総体 団体第2位
- ・卓球(男)
  - ・県総体 団体 ベスト8
  - ・ハンドボール(女)
  - ・県総体 団体 ベスト8
  - ・陸上競技
  - ・県総体
    - 400M 2位 佐伯
    - 四国大会出場
- ・水泳
  - ・県総体
    - 100M
    - 200M
    - 4位 山本
    - 四国大会出場
  - ・ダンス
    - ・県総体 優勝(三年連続)
- ・文化部門
  - ・第三十四回愛媛県高等学校放送コンテスト
  - ・ラジオ番組 自由部門 優良
  - ・ラジオ番組 課題部門 優良

### 会則変更の お知らせとお願い

我、西校も二十周年を迎え、フレッシュな新設校というイメージから、伝統校への仲間入りをしつつあります。(まだまだこれからではありませんが……)

#### 同窓会の予算にも

第六条 普通会員は、卒業時までに入会金として二千五百円、終身会費として一万円を納入しなければならない。会費納入後は、返金しないものとする。

という項目が計上されるようになり、同窓会という組織として、名実共に充実しているとしております。そこでその予算確保のために、在学中に永年会費というものを納めていただくという案がでております。

その事を皆様にご報告すると共にご協力をよろしくお願い致します。